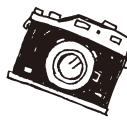


Column 市長コラム

廃プラ対策への 小さな挑戦



マイバッグ使用の推進

地球の温暖化対策が、世界的に大きな課題となっています。

一般、スペインのマドリードで「国連気候変動枠組条約第25回締約国会議（COP25）」が開催され、気候変動への国際的対処について議論が交わされました。

日本の石炭火力発電に関する方針が批判を浴び、また小泉環境大臣の言動が物議を醸しました。

地球温暖化問題に関しては、重要政策として日本全体で温室効果ガスの排出削減に取り組まなければなりません。笠間市は、これまで市民団体とともに環境問題に積極的に取り組んできましたが、さらなる対策として、業務の中で使い捨てプラスチックを削減する取り組みを、小さことから始めています。

具体的には、

- ・府内職員へのマイバッグ・マイボトル使用の推進
- ・市立病院で来院患者向けの薬を入れるビニール袋を紙袋へ変更
- ・イベントでの紙コップの使用などです。
- ・また、自動販売機のペットボトル製品を、缶や紙パック製品へ変更していくことも検討していく予定です。

今後、市の取り組みを検証し、環境審議会等の議論を経て、市民、企業、団体へ呼びかけ、ともにこの課題に取り組んでまいります。

一自治体の小さな取り組みが、環境問題解決の一翼を担います。

私たち一人ひとりが、生活や仕事のスタイルを少しずつでも環境に配慮したものに変えていくことも、地球温暖化対策に繋がります。

今月のピックアップ

1月2日、3日にかけて行われた、第96回箱根駅伝で青山学院大学10区アンカーの湯原慶吾選手(岩間中学校出身)が1位でフィニッシュテープを切りました。

青山学院大学は、東海大が持つ大会記録を6分46秒更新、10時間45分23秒の大会新記録で2年ぶり5度目の総合優勝を果たしました。



1位でフィニッシュテープを切った湯原選手
(提供元：青山スポーツ新聞編集局)

～山口市長より～

湯原選手のアンカーとしての素晴らしい走りと勇姿は、笠間市民である私たちに感動と勇気を与えてくれました。

笠間市としてとても誇りに思うとともに、湯原選手の益々のご活躍を期待して、市を挙げて応援していきます。